

学びを取り戻そう!

～もう一度「楽しい学校」「わかる授業」を求めて～

今の学校は、子どもが学びたいことを学べているでしょうか?
今の学校は、子どもに伝えたいことを伝えられているでしょうか?
どんどん息苦しくなる学校に 私たちは、**危機感**を感じました。

- ◇不安定な子どもが増えているのでは?
- ◇「学力向上策」って子どものためになってるの?
- ◇今度の「学習指導要領」やたらと量が多くない?
- ◇いつまで、こんな忙しさが続くんだろう?



☆知っていますか? 3つのホント!

- 全国学テ** …… **もうとっくに全国平均**
(今年も正答数で比較すると全国平均との差は1問以下)
- 学力向上策** …… **徹底されるほど子どもの学びが損なわれる**
(増えるトレーニング=失われるラーニング)
- 新学習指導要領** …… **これまでで最悪と指摘されている**
(子どもは置き去り、増える内容、授業形態・評価方法まで規定)

- ◆「学テで測れるのは学力の一部にすぎない」「競争はなじまない」と言いつつ、都道府県別・市町村別の点数を公表する文科省・道教委。毎年、60億円以上の予算を投入し続ける調査の意味はどこにあるのでしょうか。
- ◆「学力向上」にとりくむ学校は増え、朝自習・授業・放課後学習・家庭学習と子どもの生活は一段とゆとりを失っています。減らないいじめ・問題行動そして自死。教職員がよかれと思いい、心身を犠牲にしてまで「学力向上」にとりくむほど、結果として子どもを追い込んではいないでしょうか?
- ◆「主体的・対話的で深い学び」と言いながら、指導内容をさらに増加・過密化し、じっくり考え・交流・深化する時間をどこにも保障しない。そんな“矛盾”だらけの「学校指導要領」を鵜呑みにしていいのでしょうか?

このままでは、子どもも教職員もだめになるのでは? 近い将来、学校も地域も社会も…だめになるのでは?

現場の声に耳を傾けず、現政権や企業に都合のよい「資質・能力」を押しつける学校ではなく、子どもの学びたい気持ちを大切にしたい学校をもう一度取り戻したい。

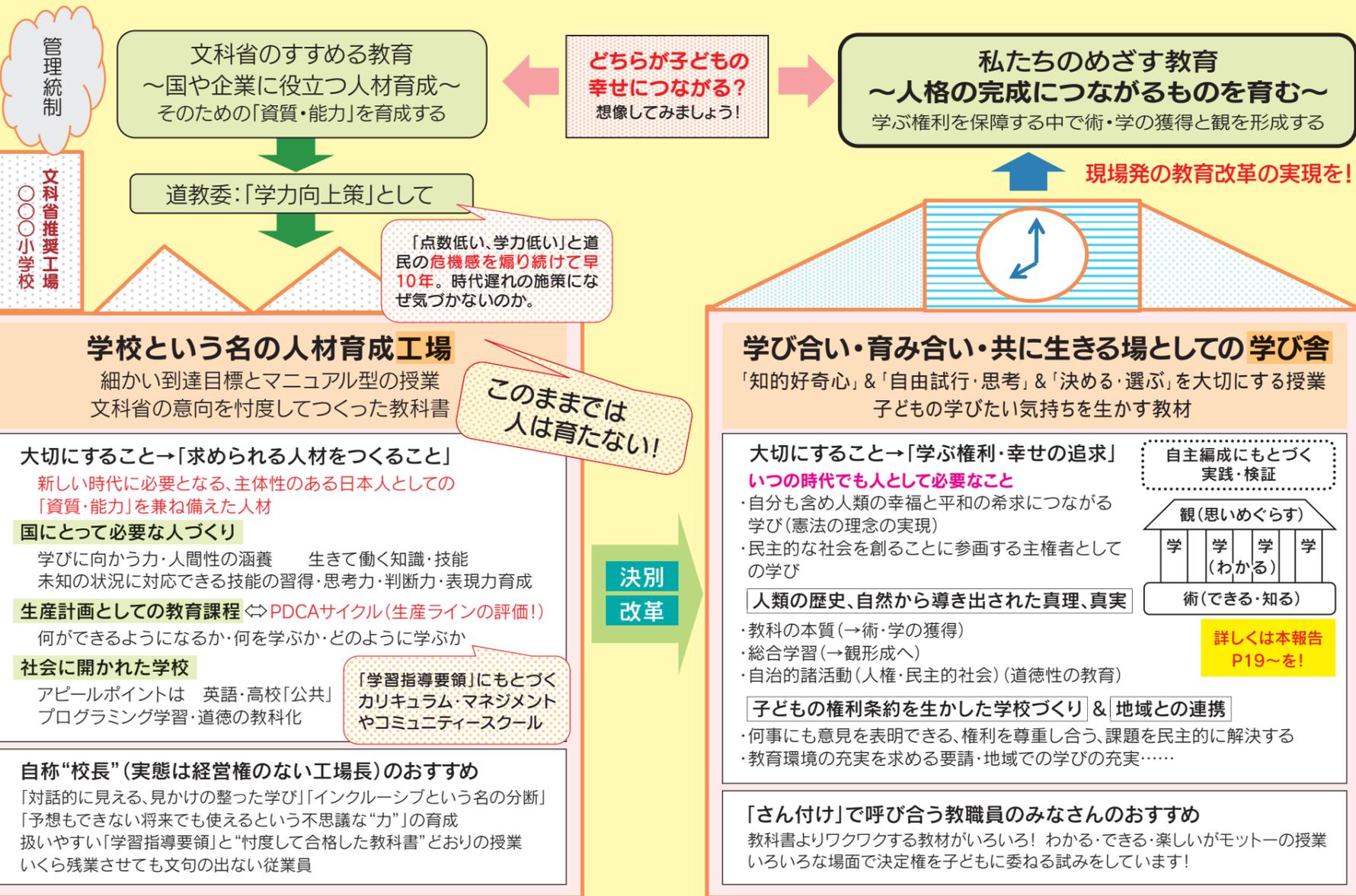
そこで…「学習指導要領」・「学力向上策」にふり回されず

ホントに大切なことは何かを考えながら 子どもと一緒に「楽しい学校」「わかる授業」を創りあげたい!

こんな思いを実現するために、私たちは提案します。

人格の完成につながる教育課程はどうしたらよい?
真理と真実を大切にする学習内容は どうしたらよい?
学びの主体性を尊重する授業・活動はどうしたらよい?

『学校改革・教育課程自主編成推進委員会 本報告
-「自分らしく」「よりよく生きる」教育の創造をめざして-』
ダイジェスト



自分らしく・よりよく生きる ことにつながる実践のポイント

学	◆単元や授業をとおして、どのような“学”(わかる)を獲得するのかを検討した上で、学習内容やテーマ・課題と“学”のつながりをイメージし、“学び”の方向性や目的を明確にする。	詳しくは本報告 P25～を!
術	◆単元や授業をとおして、どのような“術”(できる・知っている)を身につけるのかを検討する(場合によっては、教科書等で“術”に該当する内容を洗い出す)。 ◆扱う“術”の順次性や構成(“術”どうしのつながり)を検討する。“学”の獲得に向けて、どのような“術”をどのような順に扱うことが、子どもの実態や認識のしかたに適しているかを検討する。	北教組HPIにも各教科の実践例が掲載!

“学び”に向かう気持ちを大切に する実践のポイント

知的 好奇心	(なぜ? おもしろそう! やってみたい!) “学び”のモチベーションを高める ●教材との出会いを工夫する。“学”の獲得に向かう単元を貫くテーマ・課題づくりにつながる活動。	感性や閃きも生かす
自由試行 自由思考	(やってみる、想像してみる) “学び”のモチベーションを維持・向上する ●探究的な活動、思いついたことを実行する時間を確保する。 ●知的な好奇心を刺激し課題づくりにつなげる場面、課題解決の見通しが立たない場面、課題解決のさまざまな場面などで、自由に試行する(試しにやってみる)・思考する(想像してみる)活動を保障する。	
判断	(決める、選ぶ) 自己決定権により、次の学びのモチベーションの向上や自己成就感を育む ●課題づくり、学習計画、探究活動、まとめや発表の内容・方法など、自己決定(選択も含む)する場面をつくる。	

自主編成“はじめの一歩” “術・学・観”の視点で授業を創ろう

安心感や所属感を土台に“学び”の主体性を育む授業・活動を創ろう

本報告の内容

- ・子どもの実態
- ・学びと「学力」
- ・学びを阻害するもの
- ・学びの前提
- ・術・学・観と学びの主体性
- ・実践例

北教

職場討議資料 No.4
2018.6.13

発行所
北海道教職員組合
札幌市中央区南3条西12丁目
電話 561-8289 番
発行人/信岡 聡
編集人/江原 裕美
(組合員や関係者は組合費の中を含む)
印刷/(株)中央広版社



「本報告」もご覧ください

「自分らしく」「よりよく生きる」 “道徳性の教育”をめざして

文科省が「学習指導要領」で示した「特別の教科 道徳」の考え方

「特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にある」

■「価値」を押しつける検定教科書

各教材の冒頭の見出しや設問は特定の「価値」を押しつけるものとなっています。検定では、心情理解にかんする問いや「特定の価値観を押しつける」問いに対し、検定意見は一切つきませんでした。

1年生のA-3「節度、節制」で全社が掲載している「かぼちゃのつる」は、まわりの迷惑や注意に耳を傾けず、伸び放題につるを伸ばしたかぼちゃが、最後には車に踏みつけられて「イタイよう」と泣く話です。自他の権利の衝突をどう解決するかを考える教材として活用できますが、かぼちゃのつるを伸ばすという特性を「わがまま」として、子どもに我慢を強いる内容になっています。〔本報告 P50〕

「かぼちゃのつる」(光文書院1年)

教材名の前に「わがまま」設問に「がまん」と表記

わがままばかりして いると「わがままですよ」とちゅういされるのは、どんなときですか。

かぼちゃのつる

まわりの人のちゅういをきいて、がまんすることができたときのことを、おもいだしてみよう。

一人一人が自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図る

■議論する余地はありません

東京書籍は、1・2年生向けの教科書では編集者の「指導の自主性を尊重したい」という考えを尊重して、あえて設問を入れませんでした。それに対し、「学習指導要領が定めた『問題解決的な学習について適切な配慮』がされていない」という検定意見が付き、「内容項目」を誘導させるキャラクターの吹き出しを挿入してようやく検定合格しました。

ある編集者は「設問をあらかじめ示すことは、読み手の子どもに先入観を与え、読み方を規定することにつながりかねない。『考える道徳』に反しないか」(朝日新聞2017年3月25日)と指摘しています。

「目覚まし時計」(教育出版4年生)

どうしてりかかは、今の自分が悲しくなってきたのでしょうか。

決まりが守れなくて、生活がみだれたからかな

自分がかたがたしたらこのあとどうしますか。考えてみましょう。

悲しい気持ちをはねに、決まりを考え直して、がんばると思うよ。

教科書検定結果から見える「国家道徳」の危険性

- 子どもたちは設問やキャラクターの吹き出しにより「何を」「どう答えればいいか」に沿って「議論する」こととなります。子どもたちは自分の発言が教科書によって誘導されているにもかかわらず、自分の考えであるかのように錯覚します。
- あくまで国が決めた「内容項目」の枠内で「考え、議論する」ことが前提となっています。
- 「学習指導要領」や「解説」で明記した、「特定の価値観を押し付ける指導は、道徳教育が目指す方向の対極にある」とは、指導する教員に対しての「警告」としての意味づけがされているのです。〔本報告 P52〕

『学校改革・教育課程自主編成推進委員会 本報告
-「自分らしく」「よりよく生きる」教育の創造をめざして-』
ダイジェスト

私たちがめざす“道徳性の教育”の方向性と具体的なとりくみ

■「人格の完成」をめざす学習を展開する視点～「ともに生きる」ことを探求する～

民主的な教育で培う道徳性は、①民主主義社会を担う主権者としての「自主的判断と行為の能力」であり、②同時に、その核心に人権尊重を基本にすえて「共生と連帯」をめざすものです。

■多様性を確保し「自主的判断」を育むために

・教科書教材を批判的な視点で分析する

「はしのうえのおおかみ」は全社で採用されている教材です。問題点は、子どもたちに橋を渡るためにはどうしたらよいかを考えさせることなく、「親切・思いやり」で解決させてしまうことです。よって、2つの視点で授業をします。

- ①約束やルールを決める時には、「公正・公平」の視点が大切であること。
- ②「親切」や「思いやり」は相手のことを考えて行うことが大切であること。

「あらすじ」
おおかみは一本橋を渡るとき、反対側から来たうさぎやきつねに「もどれ」と追い返す。じわるをくり返していた。ある日、おおかみは橋でくまに出会う。あわてておおかみが引き返そうとする、くまはおかみを抱き上げ、後ろにそっと下ろした。次の日からおおかみはうさぎと同じ行為をする。

「はしのうえのおおかみ」

〔本報告 P58〕

・多様性を確保するために「分断読み」「中断読み」をすすめる

「手品師」も全社で採用されている教材です。手品師が少年との約束を守ったということ「誠実」だととらえ、大劇場に行くことを「不誠実」だと一方的に刷り込もうとしています。

よって、途中の「手品師は迷いに迷っていました」までで読みを終わります。その後は、「自分ならどうする」という視点で話し合いをすすめます。

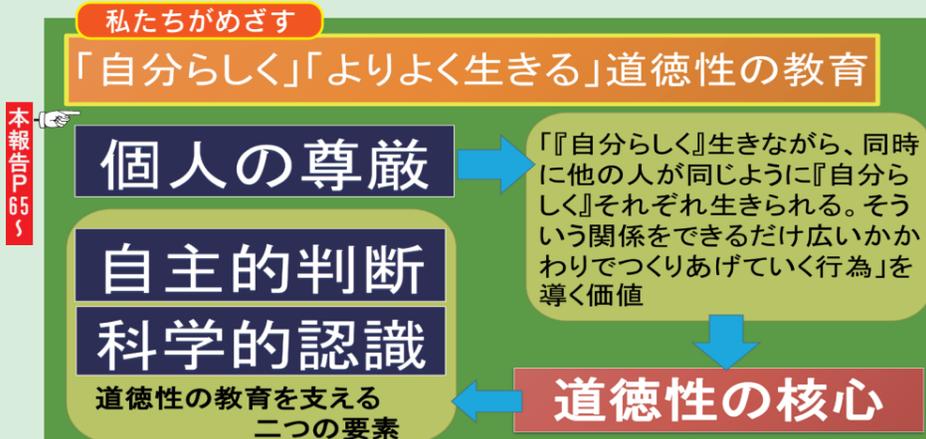
自分なりの考えを(自主的判断)をもつために、

- ①状況を分析する、
- ②「自分らしく、よりよく生きる」ためにはどうすればよいか考える、
- ③それを実現するための方法を考える。〔本報告 P69〕

「あらすじ」
売れない手品師が道ばたで出会った元気がない男の子に手品を見せて「明日も来る」と約束した。その晩友人から電話で、大劇場に出演するチャンスがあるという話をもらう。しかし、手品師は男の子との約束を優先し、劇場出演を断った。

「手品師」

文科省の「道徳教育」		私たちの“道徳性の教育”
国家に有益な「人材育成」	目的	一人ひとりの「人格の完成」
・個人の心のありようの問題 ・「内容項目(徳目)」の知識伝達の場合 ・行動の「一律規範化」の場合	視点	・個人と社会の関係性の問題 ・「自主的判断」を育む場 ・自分のあり様を問うとともに社会のしくみや正義を批判的視点で分析し変革する
(1)「道徳科」での教え込み (2)学校全体の道徳化 (3)体系的科学的真実によらない学び	学びのあり方	(1)教育活動全体の場での学び (2)人権教育を基盤とした学校づくり (3)科学的認識にもとづく学びの継承



どんな施策が現場に押しつけられても言葉や行動で最後に子どもたちに伝えるのは私たちです。多忙を言い訳にしない！ともに頑張りましょう！

■年間指導計画

35時間の指導計画を作成する際に、小学校低学年は19、中学年は20、高学年と中学校は22の「内容項目」すべてを扱うことになります。

仮に、1項目を1時間で扱うと、高学年と中学校は残りの13時間については、子どもの実態や各学校の教育目標等と照らし合わせて、重点的に取り扱う「内容項目」を決めることができます。

その際に、現代的な課題として、人権、個人の尊厳、共生・共存、平和、国民主権、生存権、働くものの権利、表現の自由、意見表明権、学習権など、主権者として民主主義社会の形成者として必要な学びを「内容項目」の中に位置づけます。

また、教科書は「主たる教材」としての位置づけであり、他教科と同様に独自教材の活用も可能です。教科書によっては1つの「内容項目」に複数の教材を掲載している場合もあり、教科書のすべてを授業で扱う必要はありません。〔本報告 P58〕

■「評価」について

「子どもの心や価値観を評価の対象としてはならない。」

これが私たちの基本姿勢です。

「評価」の導入は、「教科化」及び検定教科書の導入と連動して、「道徳教育」に対する国家統制を格段に強めるものです。「評価」の基準は国家が選定した特定の「価値」であり、それを「積極的に評価」することは、子どもたちに特定の「価値」を押しつけたり、「評価」を気にして「良い子」を演じたりすることにつながります。

また、学級集団で国家が選定した「価値」と異なる生活習慣や価値観を持つ子どもたちが排除される危険性や、学級が子どもたちにとってありのままの自分であることが許されない場へと変質してしまう恐れがあります。

「評価」については、文科省『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)』を最大限に活用するために校内研修等で全教職員が共通理解を深めるとりくみをすすめます。〔本報告 P69〕「評価」の文例を含めて記載しています。

「道徳教育」	「いじめ」問題から分かる違い	人権教育
<p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちには、「いじめはよくないことだ」との認識がない ・子どもたちには、「やさしさ」「おもいやり」が欠けている ・子どもたちには、「正義感」や止める「勇気」がない 	<p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会状況が問題を生み出しているのではと現象の背景を探る。 ・多様性を認め合い分り合うために必要な活動の不足やゆりのなさ。 	<p>原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをとりまく社会状況が問題を生み出しているのではと現象の背景を探る。 ・多様性を認め合い分り合うために必要な活動の不足やゆりのなさ。
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「だめなことはだめだ」と繰り返し徹底的に教え込む。 ・子どもに「いじめ撲滅宣言」をさせて、あらたな集団のルールとして位置づけ、守らせる。 ・子どもたちの「心」を強化するために「道徳」を「教科化」して教え込む。 	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の「権利」や「人としての尊厳」は守られるべきものであり侵してはならないものであることを理解を深める。 ・多様性を認め合い、排除しないとりくみを人との間わりや学びを通して行う。 ・「いじめ」がどのような社会的な構造によって生み出されるのかを解明し、課題を見つけて出し、解決していこうとする。 	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の「権利」や「人としての尊厳」は守られるべきものであり侵してはならないものであることを理解を深める。 ・多様性を認め合い、排除しないとりくみを人との間わりや学びを通して行う。 ・「いじめ」がどのような社会的な構造によって生み出されるのかを解明し、課題を見つけて出し、解決していこうとする。

